

～世田谷区川場村縁組協定40周年記念式典・シンポジウム～

【第1部】 記念式典

令和3年11月28日（日）13時00分～

東京農業大学 横井講堂

○司会 大変お待たせいたしました。ただいまから世田谷区・川場村縁組協定40周年記念式典を開始いたします。本日はお忙しいところ、世田谷区・川場村縁組協定40周年記念式典に御列席いただき、誠にありがとうございます。

私は、本日の式典の司会を務めさせていただきますジェイコムアナウンサーの宮本夏帆と申します。どうぞよろしく願いいたします。（拍手）

そして、本日、手話通訳をしていただく皆様です。

初めに、世田谷区を代表いたしまして、保坂展人区長より御挨拶申し上げます。

○保坂区長 皆様、こんにちは。世田谷区長の保坂展人です。本日は大変お忙しい中、川場村との縁組協定40周年式典に御参集いただきましてありがとうございます。また、川場村からも外山村長をはじめ多くの皆様に遠方はるばるお越しをいただきました。誠にありがとうございます。日頃から区民健康村事業に御理解と熱い御協力をいただいていることをお礼を申し上げたいと思います。

さて、昭和56年、1981年ですが、世田谷区と川場村との間での縁組協定の締結が行われました。この基本理念は、相互理解と信頼関係に基づいて、都市と農山村の双方の地域社会の発展のために補完協力関係を構築することとされております。40年という節目を迎えた今日でも色あせることなく交流が継続をしております。

この間、世田谷区の小学校5年生の移動教室、そして区民と村民との交流を柱に多様な事業が展開されるとともに、友好の森事業、木質バイオマス発電による自然エネルギーの自治体間連携など、政策課題解決に向けた事業にも活発に取り組んできました。中でも交流の拠点となる区民健康村のふじやま、なかの両ビレジにも、開設35周年を迎え、利用者は延べ人数で210万人を数え、世田谷区民にとって、川場村が第2のふるさととして定着をし、親しまれていることを心から実感しております。

さて、昨年からのコロナ禍の影響を受けて、区民健康村事業についても、移動教室や交流事業の順延や中止などの事態が起きました。経済活動と感染対策を双方目配りする苦労、そして皆様の努力を長いこと必要とする時期が続いてまいりました。区と村の交流にも、こうした工夫も踏まえて、現在、新規感染者は大変少なく、おかげさまでなっておりますけれども、この機に40周年記念式典を挙げるということ、大変うれしく思っております。

今後、日本全国人口減少社会、新しいお子さんの出生が極めて少数となってくるという傾向が年々拍車がかかっていると言ってもよいと思います。後継者や担い手の不足や、森

林や農地の継続が困難になること、居住以外の増加など、農山村での問題、さらに、私たちの住むこの都市部、人口が密集して極めて災害に対するリスクも高い、このように言われております。気候危機や災害対策など、1つの自治体で全てを自己完結的に解決するのはなかなか難しい時代になってきたと思います。世田谷区と川場村40年にわたり培った共通の財産である、互いに行き来をし、交流を深め、そして世田谷区と川場村のお互いの特徴や長所を組み合いながら、連携を一層強化していくことで、この困難な時代を乗り越える大きなチャンスと、そして新たな取組の契機にできるものと信じております。

私たちは40周年を迎えました。これからの50年に向けて、これまでの交流を一步進め、そして、互いの文化資源や地域資源を活用するとともに、もう既に移動教室で川場村を体験したという親世代のお子さんたちが、また移動教室に向かって出かけてくる、帰ってきたと、こういうふうに2世代にわたる交流に相なってまいりました。これが2世代が3世代になり、次の世代に連綿と受け継がれていくように、先人たちがこの縁組協定にかけた熱い思い、姉妹都市、姉妹よりも夫婦に例えた縁組ということでございますので、しっかりと次の展開を川場村の皆さんと私ども世田谷区で知恵を出し、構想を練ってまいりたいと思います。

本日は大変ありがとうございました。（拍手）

○司会 保坂区長、ありがとうございました。

続きまして、川場村を代表いたしまして、外山京太郎村長より御挨拶申し上げます。

（拍手）

○外山村長 皆さん、こんにちは。御紹介いただきました川場村の外山でございます。今朝の川場村は、昨日から降った雪で一面雪景色の中、今日、世田谷に向かったところでありますが、世田谷区と川場村の縁組協定40周年記念式典に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

本日は御多忙の中、基調講演をお引き受けくださいましたNPO法人共存の森ネットワーク理事長の澁澤先生をはじめ、総務省大臣官房地域力創造審議官の馬場様、林野庁次長の織田様、また関係各位の御臨席を賜り、記念式典が開催できますことに心より御礼を申し上げます。さらに、縁組協定締結以来、お付き合いをいただいております東京農業大学様におかれましては、この横井講堂を本日の会場として御提供いただきましたことにつきましても、併せて感謝を申し上げます。

さて、時がたつのも早いもので、昭和56年に世田谷区と川場村が縁組協定を締結してか

らはや40年が経過したわけでございます。都市と農村の交流事業におきまして、これほど長く内容の濃い関係性を続けているということは、全国的に見てもまれでございます、都市と農村の交流事業の成功事例として今も注目をされているところでございます。これもひとえに世田谷区民、川場村民はもとより、これまで交流事業に携わっていただきました多くの関係者の皆様の御尽力と御支援、御協力のたまものと感謝を申し上げる次第でございます。

交流事業推進に当たりまして、区と村では、協定締結以来、10年ごとに、区民健康村事業計画というものを策定しております。協定締結40年が経過したこの先、10年の第5期事業の計画の中では、3つの基本理念を掲げておるところでございます。1つ目は、区と村がお互いに共存共生できる仕組みをつくる。2つ目は、これまで携わってきた交流から新しい文化価値をつくる。3つ目として、次代を担う子どもたちの健全な成長と、若者の参画につながる交流を推進するというものでございます。区民の第2のふるさとづくりをさらに推進するために、これまでの交流事業で積み上げてきました実績を踏まえつつ、共有の財産である川場村の自然環境の保全育成をさらに継続するとともに、時代とともに変化をする社会情勢にも柔軟に対応すべく、随時検討を重ねながら、次世代へとつながる交流事業を世田谷区の皆さんとともに作り上げていきたいと考えております。

両自治体とも将来に向けて課題は抱えておりますが、お互いの協力を惜しむことなく、互いを俯瞰して、強みを生かし合って、区民と村民が絆をさらに深め、幸福感を共有できるよう努力をまいります。

結びに、次の50年に向けて、関係各位のさらなる御支援と御協力をお願いするとともに、世田谷区のますますの御発展と本日御列席いただきました皆様方の御健勝を御祈念申し上げます、御挨拶といたします。ありがとうございました。（拍手）

○司会 外山村長、ありがとうございました。

続きまして、本日の記念式典に御列席を賜りました御来賓の方々を御紹介いたします。

NPO法人共存の森ネットワーク理事長、澁澤寿一様です。（拍手）

続きまして、総務省地域力創造審議官、馬場竹次郎様です。（拍手）

続きまして、農林水産省林野庁次長、織田央様です。（拍手）

続きまして、世田谷区議会議長、下山芳男様です。（拍手）

続きまして、川場村議会議長、角田文雄様です。（拍手）

続きまして、株式会社世田谷川場ふるさと公社代表取締役社長の宮林茂幸様です。（拍

手)

引き続きまして、御登壇いただいている区と村の教育委員会の紹介に移ります。

世田谷区教育委員会教育長、渡部理枝様です。(拍手)

続きまして、川場村教育委員会教育長、宮内伸明様です。(拍手)

それでは、御来賓の皆様を代表いたしまして、世田谷区議会議長、下山芳男様、川場村議会議長、角田文雄様から祝辞を賜りたいと存じます。また、東京農業大学学長、江口文陽様よりビデオレターによる祝辞をいただいておりますので、後ほど御紹介させていただきます。

それでは、世田谷区議会議長、下山芳男様、よろしくお願いたします。(拍手)

○下山議長 皆様、こんにちは。ただいま御紹介をいただきました世田谷区議会議長を務めさせていただいております下山芳男でございます。世田谷区と川場村の縁組協定40周年記念式典開催に当たり、世田谷区議会を代表いたしまして、一言御挨拶を申し上げます。

世田谷区民の第2のふるさととして縁組協定を締結して40周年を迎え、長きにわたり川場村との交流を続けさせていただいておりますことを深く感謝申し上げます。世田谷区と川場村では縁組協定を締結した40年も前から、都市と農山村との交流に着目し、住民同士、自治体同士の交流をより深め、広げてきたことは大変意義深いものであり、改めて関係者の皆様に敬意を表する次第でございます。

川場村のリンゴの木のオーナーになれるレンタアップル制度、また親子の里山での自然を肌で体感できる親子里山体験コース、村の方々から指導が受けられる収穫の喜びを味わえる農業塾や棚田オーナー制度など、様々な事業を通じた交流は、区民と村民皆様との友好、絆を深め、川場村の豊かな自然の恩恵を享受できる貴重な機会となっております。また、区内イベントでの川場村の農産物販売は、世田谷区にいながら川場村のおいしい農産物を味わえることで、区民の皆様からの人気も高く、多くの区民の皆様が物産展の開催を心待ちにされております。

私も初めて川場村にお邪魔したのは、締結されて10年くらいたってから、PTAの仲間と子どもたちがどういうことをしているのかということで体験させていただきました。本当に素晴らしい自然の中で子どもたちが川場村で生活できるということ、本当に身をもって体験いたしまして、この締結されたことの意義を深く感じたわけでございます。

世田谷区議会といたしましても、これからも川場村が美しく、活気あふれる田園理想郷としてますます発展されることを期待しております。

結びになります。本日御参会の皆様、御健勝と、世田谷区と川場村の交流がさらに有意義なものとなりますことを祈念いたしまして、世田谷区議会を代表しての御挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。ありがとうございました。（拍手）

○司会 ありがとうございます。

続きまして、川場村議会議長、角田文雄様、よろしくお願いたします。（拍手）

○角田議長 皆さん、こんにちは。世田谷区・川場村縁組協定40周年、大変おめでとうございます。この席をお借りいたしまして、祝辞を述べさせていただきます。

祝辞、本日ここに区民健康村縁組協定40周年記念式典及びシンポジウムが開催されるに当たり、川場村議会を代表いたしまして、一言御祝辞を申し上げます。

昭和56年11月に、地域社会の発展のために、互いに協力することを誓った縁組協定を結んではや40年がたちました。昭和59年から建設されていた世田谷区民健康村が昭和61年4月供用開始となり、その間に、関越自動車道の開通、世田谷区立小学校5年生の2泊3日の移動教室が開始されました。平成4年1月には、縁組協定10周年を記念して友好の森建設協定調印式、平成4年度から世田谷区との交流活動の一層の活発化を目指し、川場村田園プラザ事業を開始し、平成8年4月に道の駅として登録し、年間200万人の来訪客があり、関東道の駅で常に上位を占めております。現在では、川場村における自然エネルギー活用による発電事業に関する連携・協力協定の締結等、ますます交流事業の深まりが感じられます。

この縁組協定40周年に当たり、今まで携われました世田谷区長様、世田谷区議会の議員の皆様をはじめ、多くの関係皆様に敬意を表するとともに、お祝いを申し上げます。本日のような記念式典が今後の交流事業の飛躍につながり、さらには、世田谷区及び川場村が縁組協定の精神に基づき、互いの個性を尊重し、都市と農山村の交流をより一層推進していただきたいと思っております。

終わりに、本日御参会の皆様が、今後の交流事業について、実りのある一日となりますよう願うとともに、世田谷区のますますの御発展と御活躍を心より御祈念申し上げます。

令和3年11月28日、川場村議会議長、角田文雄。

本日は誠にありがとうございます。（拍手）

○司会 ありがとうございます。

続きまして、東京農業大学学長、江口文陽様のビデオレターを御紹介させていただきます。

○江口学長 皆様、こんにちは、東京農業大学学長の江口文陽でございます。本日、本来ならば、横井講堂にお邪魔し、そしてお祝いの言葉を申し上げるべきでございますけれども、どうしても外せない公務がございまして、このような形でビデオレターとして御挨拶申し上げます。

本日は、世田谷区と川場村の縁組40周年の記念の式典、そしてシンポジウムが開催されますこと、心からお祝い申し上げます。そして、その記念すべき会が、この東京農業大学の横井講堂で開催されますこと、東京農業大学を代表して心からお礼申し上げますとともに、ここを選んでいただいたことに本当にうれしく思っている次第でございます。

40年前と申しますと、まだ私が高等学校の生徒でした。そして、そのときに、世田谷区と川場村が縁組をするんだということを新聞や、あるいは群馬のテレビで実際に私が耳にすることがありました。当時、東京農業大学の第二高等学校の生徒であった私は、世田谷には東京農業大学がある、その大学のあるそこの区と群馬の川場村が縁組をする、なんてすばらしいことなんだろうということを思ったということは事実でございます。そして、そこから40年という月日が流れたわけですが、こういった都市と農山村の地域が連携をする、縁組をするということは、まさにこの世田谷と川場村の縁組がはしりではないかというふうに感じています。

そして、その40年の間には、例えば私が川場村に足を踏み入れてみると、たくさんのバスが来て、小学校の児童が川場村の中で大きな声で楽しそうにはしゃいでいる、そして学んでいる、それを見るということは、まさに都市と農山村がうまく融合しているということの一つの事例ではないかと考えています。

さらに川場村には田園プラザという道の駅があります。そこには品川ナンバーや、あるいは世田谷ナンバー、杉並メンバーという、世田谷のまさに町、そこからたくさんの方が群馬の川場村に行っているということも、これは紛れもない事実であり、そこで多くの会話、そして農山村でつくられたそのものを世田谷に持ち帰るということでの一つの連携が生まれているというふうに感じます。まさに農産物や、あるいは自然環境という部分が世田谷に持ち帰り、そしてその家庭の中で、学校の中で会話が交わされている、すばらしいことではないでしょうか。そういった一つ一つの事例を、今後、さらなる40年へ向かって、世田谷区と川場村がもっともっと前進していただきたい。

そして東京農業大学は世田谷にあるわけです。この大学としてこの2つの縁組、町の縁組をぜひ応援していきたいと考えています。近年は産官学民の連携という部分が重要視さ

れています。そういったような部分の中で、この縁組がさらに発展しますことを心から私は祈念し、そして本日のこのシンポジウムが実り多きあるものになることを期待し、東京農業大学の学長としての御挨拶を申し上げます。

本日は本当におめでとうございます。そしてありがとうございました。（拍手）

○司会 東京農業大学学長、江口文陽様のビデオレターを御紹介させていただきました。ありがとうございました。

それでは、ここで宣誓書の署名の舞台の準備がございますので、少々お待ちください。

それでは、縁組協定締結40周年の節目に当たり、世田谷区長、川場村長により宣誓書の取り交わしに移りたいと存じます。恐れ入りますが、保坂区長、外山村長にはステージ中央の席までお進みいただけますでしょうか。

それでは、宣誓書を読み上げます。

昭和56年11月に世田谷区と川場村で「区民健康村相互協力に関する協定」を締結して、今年で40年を迎えた。

世田谷区は、区民健康村を拠点にした区立小学校の移動教室や交流事業を通じて、区民の「第二のふるさと」づくりを進めてきた。「友好の森」事業による森林保全活動や、東日本大震災を契機にした「再生可能エネルギー」への取組など、川場村の地域資源を活用した事業を進めている。

川場村は「田園理想郷」を目指し、「農業プラス観光」に林業を加えて、環境に配慮した誰もが住みやすいむらづくりと農林業を守る取組みを推進している。

移動教室や交流事業は、2020年に世界規模で大流行した新型コロナウイルス感染症により、中止を余儀なくされたが、ふるさとを想う世田谷区民と親戚を慕う川場村民の相助の関係はより深まりを増した交流になって、川場村の恩恵や交流の大切さをあらためて認識した。

縁組協定40周年を迎え、世田谷区と川場村の熱意ある深い想いにより積み重ねてきたこれまでの交流が多くの方々に支えられてきたことに感謝し、これからも住民同士、自治体同士が力を合わせて、誠実な信頼関係を堅持し、縁組協定の理念を次世代に継承するため、以下の内容を推進し、今後も未来に誇れる交流を続けていくことをここに宣誓する。

1. 私たちは新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえて、「with コロナ」時代に合わせた生活様式の下で、新たな交流による文化・価値を創造していきます。



2. 人口減少社会を見据えて、気候危機や災害対策など一自治体では解決できない様々な地域の課題に対して、都市部の世田谷区と農山村部の川場村の強みを生かした連携を一層強化し、持続可能な地域社会の実現を目指していきます。
3. 芸術、スポーツ、学術など世田谷区の特徴ある資源を生かした多様な文化交流を一層発展させるとともに、川場村の生活・文化・歴史を通じた多彩な交流事業の継続と、美しいふるさとや田園理想郷を体験する新たな交流を深め、健康交流の里づくりをすすめます。
4. 「第二のふるさと」づくりの原点である村の豊かな自然環境や美しい田園風景は、農林業の活動により維持されている。これらを守るため相互に協力し多様な事業を展開していきます。
5. 友好の森事業の理念に基づき、区民と村民の共通理解のもと森林環境の保全・整備を推進することで、木材の有効活用を促進すると同時に災害に強い自然環境づくりに取り組みます。
6. 次代を担う世田谷区と川場村の子どもが、相互の理解と友情を深め、豊かな感性と健全な成長を育む交流の機会を創出します。
7. カーボンニュートラルやSDGsに配慮した交流をすすめ、共助による安心・安全なふるさとづくりをすすめます。

それでは、宣誓書に御署名をお願いいたします。

署名が終わりましたら、お互いの宣誓書の交換をお願いいたします。

今、宣誓書が取り交わされました。それでは、これから記念写真撮影がございます。保坂区長、外山村長と握手をお願いいたします。（拍手）

ありがとうございます。次に、宣誓書を広げてお持ちいただいてもよろしいでしょうか。

保坂区長、外山村長、ありがとうございます。（拍手）

それでは、席にお戻りください。

それでは、ここからは前方のスクリーンで40年間の世田谷区と川場村の交流の歩みを御覧いただきたいと存じます。それでは、御登壇いただきました皆様は、恐れ入りますが、客席の前列へお着きください。

では、これから40年間に及ぶ世田谷区と川場村の交流の歩みを御覧いただきます。

昭和56年11月16日、世田谷区にて区民健康村相互協力に関する協定が調印され、区民健康村事業が本格的にスタートしました。

縁組協定締結の翌年から健康村開村までの間に、世田谷区民に川場村を少しでも知ってもらい、後の交流事業へとつなげるため、イチゴ摘みやリンゴ狩り、田植えなど様々な交流の予備活動が行われました。また、移動教室の予備活動として、区の小学生が村の施設やキャンプ場に滞在し、川場村の暮らしぶりを学び、体験する事業も始まりました。

協定締結の翌月のボロ市から始まった川場村の物産販売は、現在ではせたがやふるさと区民まつり、羽根木公園の梅まつりなど、区内の様々なイベントで、多いときには年間およそ60回の物産販売を開催しています。リンゴや野菜などの新鮮な農産物、ヨーグルト、こんにゃくといった川場村の特産物は区民にも大変好評で、区民と村民の交流や川場村PRの一役を担っています。

昭和61年4月23日に関係者400人が集い、開村式を開催し、世田谷区民健康村ふじやまビレッジ、なかのビレッジの供用を開始しました。区民健康村は単なる保養所ではなく、都市と農山村をつなぐ交流の拠点施設としての重要な役割を担っています。

健康村が開村した翌月の5月12日には、早くも区内の小学校5年生による2泊3日の移動教室が始まりました。移動教室では、主体的、体験的な活動を通じて、豊かな人間性を培うことを目的として、川場村の自然や文化に触れながら、登山やハイキング、村めぐり、飯ごう炊さんなど学校ごとに様々な活動を続けています。

平成3年から平成5年には縁組協定10周年の記念事業として、村の若者を中心に100人実行委員会を組織し、今まで培った交流の成果を最大限に発揮するとともに、企画から実施まで手づくりで行う元気の出る村づくり事業を行いました。この事業は、3年間にわたって「川」、「つち」、「森」と毎年里山の自然をテーマに趣向を凝らしたイベントを開催しました。

同じく縁組協定10周年を記念して、新しい交流の礎を築くために、なかのビレッジ裏の山林80ヘクタールを友好の森として、区民と村民が共同して川場村の森を守り育てる友好の森事業が始まりました。平成7年には友好の森の活動の一つとしてやまづくり塾が開塾し、森林作業の習得や森林に慣れ親しむプログラムが展開されてきました。

縁組協定20周年の記念式典は、ふじやまビレッジにて挙行されて、記念碑の除幕式や記念植樹が行われました。

平成17年には、縁組協定締結から四半世紀が経過し、区民、村民の交流がさらに深く、

いつまでも続くように、文化交流事業の推進、後山の整備、川場農産物のブランド化の推進、農業塾の開設、茅葺き塾の開設の5つの事業を盛り込んだ川場・世田谷交流における共同宣言が行われました。

平成18年7月には、川場村の自然を共同で守り、育て、学ぶことを目的としたやまづくり塾に加え、茅葺き塾、農業塾が開塾し、これらを包括的にまとめて里山の保全活動を行う健康村里山自然学校が開校しました。平成23年には、やまづくり塾と茅葺き塾を里山塾として再編し、現在の里山塾、農業塾に至っています。

平成23年には縁組協定の30周年記念式典が川場村で行われました。村の若手有志を中心とした団体、縁人による田んぼアートはこの年から始まりました。田んぼアートの田植えや稲刈りを通じて、区民、村民の交流を深めることができ、村の観光資源としても定着しています。また、収穫したお米の一部は区や村の福祉施設などにも寄贈され、大変喜ばれています。

平成27年度から世田谷区内でも交流事業が展開されています。世田谷トラストまちづくりが行っている喜多見地域竹山緑地の保全整備には川場村からも参加しています。区内に現存する竹山緑地において、区民が様々な体験を通じて自然と触れ合う機会づくりになっており、健康村里山自然学校で培われた経験やノウハウも生かされています。

平成28年には、川場村における自然エネルギー活用による発電事業に関する連携・協力協定が締結されました。翌年5月に川場村の森林資源を活用して、木質バイオマス発電所で発電した電力を世田谷区民40世帯に供給する連携事業も開始しました。

平成30年8月にふじやまビレジにて新温泉施設「せせらぎの湯」がオープンしました。川場の四季の移ろいを楽しみながら入浴でき、宿泊者や観光客だけでなく、地元の方からも大変親しまれています。令和2年には、同じくふじやまビレジにて木質バイオマスボイラーの運用が開始されました。ボイラーに使用する木材チップは、川場村の木材コンビナート事業を担うウッドビレジ川場が村の間伐材などを加工したものを使用しており、環境に配慮した取組により、循環型社会の構築を目指しています。

令和2年には新型コロナウイルスの感染が拡大しました。外出の機会が減った世田谷の子どもたちに元気になってもらいたい、学校給食がなくなり、食費の負担が増している家庭への支援として、川場村から飲むヨーグルトと雪ほたかのレンジアップ御飯が児童養護施設などへ寄贈されました。また、この年は、区立小学校の川場移動教室が健康村開村以来、初めて全校中止となりました。川場村の思い出を何か届けたいとのことで、村から移

動教室で飲むはずだったリンゴジュースが5年生へ届けられ、小学校から感謝のメッセージが村とリンゴ農家にたくさん届けられました。

最後に、40周年記念事業として、羽根木プレーパークの取組を御紹介します。1979年、区内にあります羽根木公園内に開園した日本初の冒険遊び場であり、区と地域住民の協働で運営されています。プレーパークのシンボリック建物であるリーダーハウスですが、今回、川場村の木材を使用して建て替えることとなりました。このリーダーハウスは、ふるさと納税の寄附金を活用し、子どもたちの思いを形になるように進めています。みんなで集えるウッドデッキが欲しい、壁を使って遊べるようになったらいいなど、様々な思いを膨らませています。川場村の皆さん、リーダーハウスが完成したら、ぜひ羽根木プレーパークに遊びに来てください。一緒にお祝いできる日を楽しみにお待ちしておりますということです。

世田谷区と川場村は、新しい時代においても様々な困難を相互の理解と協力によって克服し、お互いの地域社会の発展のため、これからも交流を深めていきます。

以上で世田谷区と川場村の交流の紹介を終了させていただきます。御清聴ありがとうございました。（拍手）

以上をもちまして、世田谷区・川場村縁組協定締結40周年記念式典を終了させていただきます。皆様、どうもありがとうございました。（拍手）

なお、この後、13時53分より第2部のシンポジウムを開催させていただく予定です。準備ができるまで、いましばらくお待ちください。